

SDGsのための子ども服リユースステーション

取組の背景・目的

支援が必要な子ども・家庭を支援するため、不要になった子ども服を地域から集め、児童館に来館した児童・保護者に無償で提供する取り組みを実施している。この取り組みにおいて、児童館は、服を提供してくれる地域の方々と子育て世帯を繋ぐ地域の拠点として機能している。

墨田児童会館は下町情緒あふれる地域にある。小さな商店街や町工場が並ぶ中、近年マンションも目立つようになり、人々の暮らしぶりも様々である。今まで「子ども服リサイクル」というネーミングで、地域から集められた子ども服の配布を年3回（各1日開催）実施していたが、今年度からは、長期的な支援を目指し、実施頻度などを変更した。

児童館の一角に、地域から集められた子ども服をハンガーラックに掛けて配置しているが、乳幼児の保護者はもちろん、児童館に遊びに来た小学生も立ち止まって自身に合う服を探して持って帰る。土日は児童館に遊びに来た父子の姿もある。お孫さんのためにと、高齢者の方も来られている。

取組の概要

- 実施場所：児童館1階のロビーの一角
- 実施頻度：2か月に1度開催。2週間の開催期間のうち、最初の1週間はリユース品回収と提供期間。残り1週間は、提供期間。
- 職員体制：専属職員は配置せず、児童館の受付職員が対応。
- 実施方法：リユース品を持参した人は、サイズ分けされたハンガーラックに服をかけていく。リユース品を貰いたい人は、自身で選び、ハンガーを外し、持って帰る。集めている品目は、160cmまでの服。新品の靴下や下着。帽子、靴などの小物。マタニティー用品、未使用の文房具。持ち帰れる品の点数制限なし。

課題・今後の展開

児童館として目指しているのは、常設型。いつきても、必要な方が必要な物資を得られる場の提供である。

常設に向けての課題としては、まずは実施場所の確保がある。また、提供してもらう服は「洗濯済でシミ・破れなどが無いもの」と明記しているが、中には捨てるのがもったいないという思いからか使い古された物もある。今年度は定期開催にしており、残った服の選別を行い、質を保っているが、常設された場合、清潔を保つためのメンテナンス方法が求められる。

工夫点・留意点

今年度、初回の実施はどれだけリユース品が集まるか見通しが立たなかったため、持ち帰る点数の制限をしていたが、実施回数を重ねるにつれ集まる品数が増えてきたため、持ち帰る品の点数制限を無制限にし、循環できるようにした。

小学校や幼稚園入学準備にあたり、準備品を揃えることが困難な家庭もいることが予想されるため、未使用の文具類を品目に加えている。

取組の効果

毎日のように立ち寄り、お気に入りを見つけていく人や、週末にご家族で見学に来るなど、それぞれのライフスタイルに合った利用の仕方が見られる。

